

EGUCHI Norio

江口 昇勇 エグチ ノリオ

教授

修士（教育心理学：名古屋大学）

名古屋大学大学院教育学研究科修了(1978), 松蔭病院臨床心理員(1976~1990), 同朋大学社会福祉学部専任講師・助教授(1985~1995), 東海銀行人事部嘱託カウンセラー(1993~1998), 愛知淑徳大学コミュニケーション学部・大学院コミュニケーション研究科助教授・教授(1995~2004), 名古屋市立中学校・カウンセラー(1996~2010), 愛知淑徳中学・高校スクール・カウンセラー(1998~), 名古屋市教育センター特別教育相談員(2002~), 愛知学院大学心身科学部・大学院心身科学研究科教授(2004~2010), 名古屋市立中央高等学校スクール・カウンセラー(2004~), 中部地方更正保護委員会委嘱の非行少年面接(2008~), 日本福祉大学赴任(2010).

【研究分野】

臨床心理学, 夢分析, スクールカウンセラー, 非行臨床, 虐待問題, 発達障害, 産業カウンセリング.

【キーワード】

夢分析, スクールカウンセラー.

【担当授業科目】

学 部：教育相談の基礎, コミュニティ理学, 総合演習 I, 総合演習 II, 子ども発達学専門演習 I.
通学大学院：臨床心理面接特論, コミュニティ・アプローチ.

【主な研究テーマ】

1. 分析心理学を基礎においた心理療法

臨床の中核は夢分析による心理療法であり, その発展として夢に登場するシンボルを安全かつ深く味わうために「球体アクティブイマジネーション体験」と呼ぶ技法を開発している.

2. 臨床心理士の養成（スーパービジョン学の確立）

学部・大学院及び, 臨床心理士取得後も含めて臨床心理士養成に15年ほど携わっている. その中核は見立てとリスクアセスメントのスーパービジョン（以下SV）であるが, しばしばSVの過程で理不尽な対応をされて傷ついてしまう臨床心理士が多いのが現実である. 我が国において現在, 緊急に確立されなければいけないのは, この「スーパービジョン学」ではないかと考えている. 自分なりにSVを手がけてきて, ようやく自分らしいSVのあり方が見えてきたので, まとめていきたいと考えている.

3. 学校臨床

スクールカウンセラー（以下SC）導入2年目から現在までさまざまな困難校やエリート校でSCを体験している. 時代の流れにより不登校, 非行, 学級崩壊, 発達障害, モンスターペアレントなど問題が移り変わっているが, SCとして機能するためには「学校査定」の視点を導入することが重要で, それを整備したいと考えている.

4. 児童臨床（コミュニティ・アプローチ）

児童相談センターの児童心理士, 児童養護施設の職員を対象に長年, SV, コンサルテーションを行ってきた. 最近では子育て支援にも関与している. 保護者の養育能力の弱体化に伴い, 虐待による愛着障害, 発達障害の増加, 身体表現性障害や解離障害など複雑な病理が顕著となっており, 予防的対応の重要性が増している. コミュニティ・アプローチという新し方法論を駆使しながら, 対応困難な親子への方法論を開拓していきたい.

5. 非行臨床

更生保護委員会の依頼で少年院や刑務所に出かけて, 非行少年の面接を行っている. 私のこれまでの臨床経験（精神科臨床, 発達障害, 虐待による愛着障害, 思春期危機の介入）の全てが関与する「臨床の総合芸術」であると実感しており, その体験を蓄積し, 非行を引き起こす多次的要因の分析を体系化したいと考えている.

【主な研究業績】

<著書>

- 『日本の心理臨床の歩みと未来—現場からの提言—』, 共著, 「学校臨床で求められる臨床活動のあり方—スクールカウンセラーの過去・現在・未来—」pp. 33-51, 人文書院, 2007. 07.
- 『臨床心理学にとっての精神科臨床—臨床の現場に学ぶ—』, 共著, 「精神科の患者さんから学ぶべき課題」pp. 116-126, 人文書院, 2007. 06.
- 『臨床実践の知—実践してきたこの私—』, 共著, 「学校現場における臨床の知—教師へのコンサルテーション—」pp. 53-67, ナカニシヤ出版, 2003. 03.
- 『学校現場に役立つ臨床心理学』, 共著, 「『影の仕事人』としてのスクールカウンセラー」pp. 84-98, 「教師とスクールカウンセラーの連携」pp. 176-181, 日本評論社, 2001. 11.
- 『人間援助の諸領域』, 共著, 「スクールカウンセラー体験から学んだこと」pp. 13-23, ナカニシヤ出版, 2000. 03.
- 『障害者といかに会おうか』 総頁259p, 単著, 黎明書房, 1990. 01.
- 『母なる愛 光と影—歪んだ母子関係が子どもを蝕む—』 総頁209p, 単著, 中央法規出版, 1989. 10.

<論文>

- 「現代における親子関係のパターンと発達障害児を育てる過程で親として成熟すること」, 『愛知学院大学心理臨床・教育相談室「心理臨床研究」』2006年度増刊号, 単著, 愛知学院大学, 2007. 03, pp. 59-69.
- 「障害者教育における影元型と障害者元型の内的意味—教師における障害者とのかかわりに着目して—」, 『愛知学院大学心理臨床・教育相談室「心理臨床研究」』2006年度増刊号, 単著, 愛知学院大学, 2007. 03, pp. 41-51.
- 「軽度発達障害児がからむ危機介入の事例—学校査定とコンサルテーションの実際—」, 『愛知学院大学心理臨床・教育相談室「心理臨床研究」』第7・8合併号, 単著, 愛知学院大学, 2007. 03, pp. 17-27.
- 「スクール・カウンセラーの現状と展望 in aichi 2000~2002」, 『愛知学院大学心理臨床・教育相談室「心理臨床研究」』第6号, 単著, 愛知学院大学, 2005. 03, pp. 25-40.

【社会における活動と仕事】

愛知県臨床心理士会 副会長, 学校臨床担当理事(2000~2003), NPO法人まちかどサポートセンター 理事長(2001~2006), 愛知県臨床心理士会 会長(2003~2006), 愛知の教育を考える懇談会第1部会「子どものこころ」部会 副部長(2003~2006), 長久手町次世代育成支援政策計画検討委員会 委員長(2004~2005), 名古屋市児童施設のあり方検討委員会 委員(2007~2008), NPO法人愛知カウンセリング協会副会長(2008~), 日本臨床心理士養成大学院連絡協議会理事(2008~).

【資格】

- 臨床心理士（登録番号 No. 00120）, 1988. 11.